

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/3/18

<p>団体名</p>	<p>一般社団法人merry attic</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>保護者のレスパイトケアを通じた児童虐待予防のための、子どもの居場所づくり</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>		<p>■活動風景</p>		
<p>●地域の望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>「みんなの今に、はじめの一步を」 昨日より今日を信じて、誰よりも夢を燃やして、わくわくすることに夢中になろう。やってみたいことに挑戦しよう。</p>		<p>宿泊利用をした子どもたちが初めて会った子ども同士であるにも関わらず仲良く遊んでいる様子</p>	
<p>●団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>子育て社会を、頼れる空気感で満たしていく。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●望ましい人的資源： 挑戦し続けられる人の集団でありたい。現在も、舞台俳優をしながら活動している職員や、海外の児童分野で活動することを夢見、英語の勉強をしながら活動している職員などがいる。そのような姿を子どもにも伝え、はじめの一步を子どもたちが踏み出す勇気の一助になりたいと考える。</p> <p>●望ましい物的資源： 子どもたちの発達、成長のために「必要なもの」だけでなく、「あったほうが良いもの」も準備できる状態。</p> <p>●望ましい活動資金： 健全な団体運営のために、寄付等のみに依存した活動資金体制ではなく、継続した事業委託などで基盤をつくり、職員の処遇改善にも積極的に取り組んでいける状態。</p> <p>●望ましい情報： 国の目指す方策や、行政の指針などをいち早く入手できる状態＝情報の出どころに意見を聞かれるような状態。</p>			
<p>■活動報告</p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>・宿泊型子ども食堂（一時的に養育を代わる事業）の実施 月に1度、週末に宿泊を伴った子どもの居場所づくりを行った。保護者の子育て疲れに対するレスパイトケアとして、一時的に子どもを宿泊を伴って預かることによって、子育て疲れの緩和をめざした。</p> <p>・子ども食堂の実施/学習など学びの支援の実施 宿泊型子ども食堂に付随して、月に1度、子育て世帯に対する食事の提供、そして学習などの学びの支援の実施を行った。本子ども食堂では生活困窮など、世帯区分にとらわれずに子育て世帯全般を対象とし実施を行い、食事をとった後には子どもたちはボランティアスタッフで見守りを行い、保護者がホッと一息つける時間と居場所を提供した。</p> <p>・本事業に関する事例報告と、課題共有としての講演会の実施 京都での事業と、本事業を合わせて宿泊を伴った子どもの居場所づくりの重要性について事例報告会の実施を行った。対保護者に対しても事例報告と課題の共有を行うため、大子ども食堂と銘打ち、大々的に実施を行った。結果、子どもを合わせて来場者数は1,000人を超えた。</p>		<p>・一時的に養育を代わる事業 ①開催 11日の実施 ②目標アウトカム「再度利用したいかという問いに対して」：参加者の90%が再度利用をしたいという回答</p> <p>・子ども食堂/学習支援の実施 ①開催 11回の実施 ②学習支援があることにより、預けたいという心理的ハードルを下げることを目指した。100%が学習支援がプログラムとしてあった方が利用をしたいという回答になった。</p> <p>・事例報告会 ①開催 1回の実施 ②目標アウトカム 参加者の人数：1,000名を超える来場者数があった。</p> <p>・研修会の実施 ①開催 2回の実施 ②合理的配慮について理解を深めることができたという回答を80%得た。</p>		
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		
<p>・当団体が京都府京都市で行ってきた子どもショートステイ事業を、別地域で行うことにより、地域によって異なるニーズを理解することにつながった。</p> <p>・地域によって異なるニーズに対しての発信方法の工夫について理解が深まった。例えば、京都市で行う事業では、児童虐待の発生予防などが明確に挙げられ、発信にも用いることができたが、今回の地域においては、子育て疲れに対する着目であり、子どもの宿泊支援としても広報することで、保護者の利用へのハードルを下げる事ができた。</p> <p>・本事業を外部に発信する際の相手によって、着目すべき、伝えるべき内容について理解をすることができた。</p>		<p>・今年度は月に1回から宿泊型子ども食堂事業を行ったが、子育て疲れが顕在化し始めた家庭に対しては反復しての利用によって、子育て疲れが解消していくはずなので、頻度を多く実施をすることや、受け入れ人数を多くすることを検討しなくてはいけない。</p> <p>・子どもの経験/体験支援について、より質の向上をめざさなくてはいけない。</p> <p>・宿泊を伴う支援であるが、子育て疲れに対しては、子どもに合理的配慮を有する必要があるなど、課題は幅広く存在していた。支援にあたるスタッフの育成にも着手しなくてはいけない。</p>		
<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>月に1回以上の宿泊支援で子育て疲れの緩和に寄与するとともに、「宿泊を通じたレスパイトケア」の重要性の認知向上</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p>		<p>・利用者（保護者）からは、リピート利用の希望が相次いだ。子どもの経験/体験支援や、子どもが楽しいと思える場所を作ることで、保護者が少しの休息を取ることにに対するハードルが下がった。</p>		